裏山

朝比奈キョータロー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
裏山

【Ｎコード】
Ｎ５９０５Ｋ

【作者名】
朝比奈キョータロー

【あらすじ】
学校の昼休み、今まで行きそびれてた学校の裏山に探検をした。そこには廃病院があり、俺たちはある発見をした。

１９８７年の夏。
学校の昼休み、俺と健二と浩太郎の３人は学校の裏山へ行った。
いままでこの学校にいて何となく気味が悪いこの裏山には入りたくなかったんだが、
高校ももう卒業ってことで探検しようじゃないかってことになった。
学校の隣にグラウンドがあり、サッカーゴールがいつもある辺りの後ろの小道。
そこから山に登って行ける。
１０分くらい上ると廃病院があり、我々調査団は潜入に成功した。
「地下室があやしいな」何があやしいのかわからないが健二が言う。
で地下に行くと手術室があり、のぞいてみると手術台にグレイ、と言うのだろうか
宇宙人みたいなのが乗っていた。ＵＦＯ番組で見たまさにそれが！！
そいつはむっくりと起き上がり、こちらをでかい、黒光りする瞳でギロリと見た。
「おまえらさぁ」奴がしゃべり出した。
「ちゃんと将来とか考えてんの？廃墟探検とかもいいけどさ。いつまでも若いって
思ったら大間違いだぞ。３０歳とか過ぎたらさ、時間なんてあっちゅう間に過ぎてしまう。
今はほら、バブルだかなんだか知らないけどさ、今に景気も悪くなって街には失業者が、
山手線には自殺者があふれてだな、え？聞いてんのか？」
俺たちは宇宙人に会った興奮も冷め、現実に戻ってしまい、健二も
「感じ悪ッ。帰ろうぜ」
とか言って、俺も「ああ」と気の抜けた声で答え、浩太郎も「うん」
とか言って病院を出た。

とぼとぼと教室に戻って行った。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5905k/

裏山

2010年12月14日18時16分発行